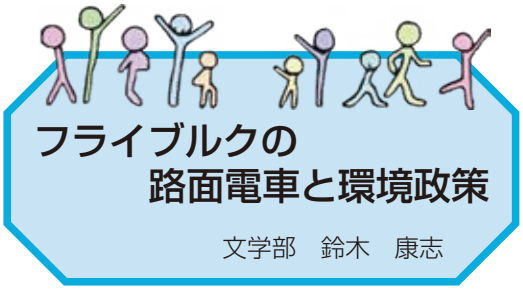

フライブルクの路面電車と環境政策

文学部　鈴木　康志

豊橋には路面電車があり、いいなぁと思いますが、街中での車との交通に不便もあってか日本では少数派です。一方ヨーロッパでは多くの街にカラフルで素敵な路面電車が走っています。今回は合わせて3年ほど生活していました、環境都市として世界的に有名なドイツのフライブルクの路面電車（トラム）を紹介したいと思います。

レギオカルテ

フライブルクで、環境を守るため、マイカーではなく路面電車の利用を呼びかける「環境定期券」が導入されたのは1984年でした。初めは市内だけでしたが、1991年「地域定期券（レギオカルテ）」システムが導入され、この1枚のレギオカルテ月66ユーロ（約9000円）、予約や年間購入の場合月56ユーロ（約7500円）で、フライブルク市とその周辺2200平方キロメートルのほぼすべての公共交通機関に共通に使用できます。つまりフライブルク市内の路面電車やバスに自由に乗れるだけでなく、ドイツ鉄道（DB）や郊外行きバスなど多くの公営・民営の交通手段も利用できます。貸し借り自由のうえ、1枚の定期券で日曜と祭日は、大人2人、子供4人、犬一匹（つまり1家族）が利用できます。しかもこれらの交通機関、特に路面電車は日中7分に1本程度あり、遅れることはあまりありません。フライブルクの中心市街地へは市電とバスとタクシーのみで、マイカーは入れませんし、道路もバス専用路には一般車は入れません。マイカー利用者は郊外まで車で来て、そこに駐車し（郊外には無料か非常に安い駐車場があります）、そこからは公共の交通機関に乗り換えます。これがパーク・アンド・ライド制度で、マイカーなどで市街が混雑することなく、公共交通機関が遅れることがない理由の一つです。また、乗客の多くが環境定期券利用のため改札もなく、一つの電車に出入口が複数あり、乗り降りもスムーズです。そのため、只乗りも可能ですが、ときどき抜き打ちにあるコントロールの際に有効な定期券やチケットを持っていないと高額（60ユーロ）の罰金になります。

街の規模が異なり、一概に比較はできないかもしれませんが、その便利さを名古屋に住む私の感覚で例えると、9000円のレギオカルテで一カ月、名古屋のすべての地下鉄やバスが無料、JRや遠距離バスも名古屋からであれば岐阜や岡崎くらいまで無料の感じです。今はマナカで少し便利にはなりましたが、名古屋で休日に家族4人で出かけるとバス代、地下鉄代をそれぞれ払うことになり、お金がかかるうえに、面倒なため、どうしても車を使ってしまいます。ところがフライブルクでは休日に家族で出かけても、私一人がレギオカルテを持っているだけで、家族はお金も乗車券購入などの手間も一切ありませんので、フライブルク滞在中はすべて公の交通機関を使いました。安くて、便利で、ほぼ時間通りであれば、人はマイカーよりも公共交通手段を使うようになります。特に環境に貢献していることがドイツ人たちの心をとらえています。同じ規模の日本の都市の自動車利用

フライブルクの路面電車

率が60％であるのに対して、フライブルクは30％とのことで、CO_2の大きな削減にもなっているようです。ただしこの安さのため、赤字で税金などから補填されることになります。

5年前にフライブルク大学で研究をしているとき、路面電車の多くはLRT（ライト・レール・トランジット）と呼ばれる次世代型の路面電車でした。特徴は、カラフルでデザイン性を備えたモダンな電車で、低床式車両のため（写真参照）、乗り場と車両に段差もなく、高齢者や車いすの人、ベビーカーのお母さんもスムーズに乗り込むことができ、車内には車いすやベビーカーのスペースが作られています。それでも段差のある古いタイプの電車が来ることもありましたが、乗り降りで車椅子の方やベビーカーのお母さんを助けるのは当たり前になっていて、それも見ていていいなぁと思いました。電車は、電気モーターで動き、二酸化炭素を出さず、振動も少なく快適です。私はヴォーバンという特に環境にやさしい地区に住んでいましたが、市電は市の中心を出るとヴォーバンまで電車の路面は環境のため緑でおおわれていました。フライブルク市は、都市対策、廃棄物処理対策、エネルギー利用対策、森林対策さらに環境教育など様々な環境政策が行われていますが、路面電車もその一端を担っています。

すでに地下鉄がある大きな都市ではむずかしいと思いますが、学生のみなさんにとって環境問題と高齢化は今後大きな問題ですので、環境にも、そして高齢者にもやさしいLRTの導入は、日本の中規模の都市ではますますその導入が議論されるようになるのではないでしょうか。